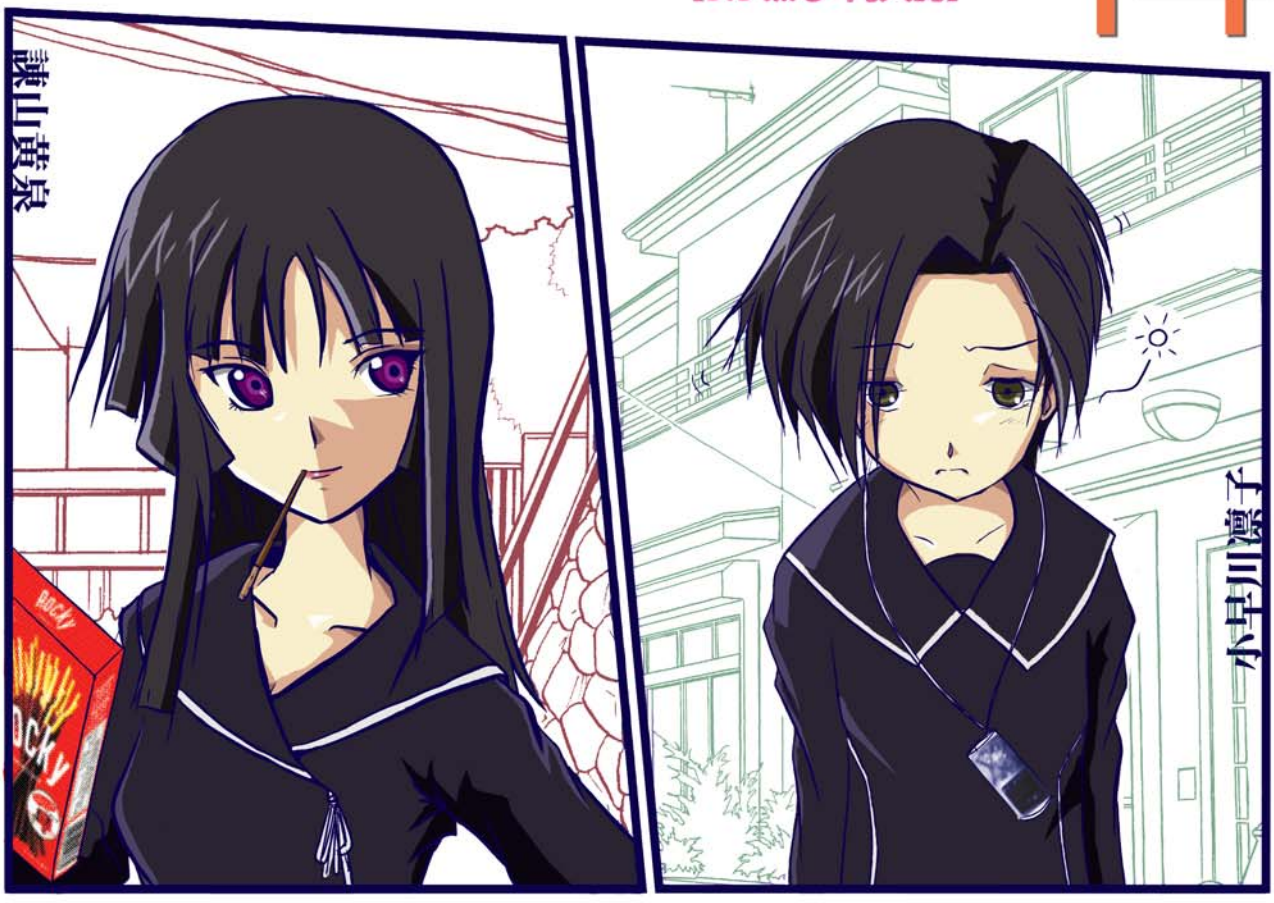
Anne×Love

全姉連会報 14

【DVD無し 同人誌】



全姉連会報 第14号

表紙イラスト：キョルノフ様（全ママ連総裁）

今号の表紙は全ママ連のキョルノフ氏にお願いしました。いつもありがとう！

モデルに関してはいつも絵師様お任せで、どんな内容になるか予想が付かないのですが、彼が黒髪・セーラー服属性であったことを考えると、至極納得のチョイス。

本来セーラー服キャラじゃないのにセーラー服を着ている姉がいるのは、彼の趣味です。

ネタ絵しか描けないのに表紙を引き受けてしまったキョルノフと申します。

今回は完全にパロディにしてしまいました。

最初「庚夕子（黄昏乙女アムネジア）」「諫山黄泉（喰霊）」「彼女（放課後プレイ）」の３人の黒髪姫カットセーラーお姉さんが寛いでる絵を描くつもりが、画力の無さでさくっと断念。

だってしょうがないじゃない！？こっちはド素人よっ！画力が無いんだからネタで勝負するしかないじゃないっ！？

そんなわけで、美しいお姉さんの絵はプロの方にお願いしますわ。

姉ゲー『もっと姉、ちゃんとしようよっ！』（Candy Soft）

前号での体験版レビューの続き。気になる本編でのお姉ちゃん達は？

姉コミック『ネコあね。』（奈良一平）

飼い猫の杏子がある日突然姉に！？　ハートウォーミング猫又お姉ちゃんストーリー。

姉ゲー『姉婚（シスコン）』（あるこみす。）

「姉貴！　俺と結婚してくれ！」「……はい」 結婚を前にした姉弟の夏恋物語。

姉ゲー『オレの姉ちゃん～オレは姉ちゃんのオモチャじゃないっ！』（LoveJuice）

弟が初めてラブレターをもらってきた日から始まる、お姉ちゃん達による弟争奪戦！

姉コミック『姉は嫁』（音音）

生粋の姉属性漫画家・音音先生の待望の新刊！　入魂の実姉至上主義宣言！

姉ノベル『お姉ちゃんだって痴女になれるもん！』（古田航太著／イラスト・蓮見江蘭）

弟への熱い想いを伝える方法。それは、お姉ちゃんが「痴女」になることだった！？

姉コミック『ラブプラス　カノジョの過去』（若宮弘明）

あのラブプラスの後輩キャラ・リンコさんの過去。今日から姉さんと呼んでもいいですか！？

姉ノベル『あねもね☆ろわいやる』（本田透著／イラスト・相音うしお）

ラノベ『がく×ぶる』シリーズの本田先生が贈る、お姉ちゃん×おっぱい×バトルノベル！

佐々宮ちるだ先生 特別寄稿 『ある日の柊家』

作家・佐々宮ちるだ先生が、本書のために書き下ろしゲスト原稿をお寄せ下さいました。

柊家にやって来たのは、先生のオリジナル新作に登場する新米お姉ちゃん3人組！

お約束：

全姉連のレビューは「姉萌え」至上主義。絵や文章の評価は二の次です。

本文中で引用した画像、文章の著作権は、すべて各メーカー様、著者様にあります。

もっと姉、ちゃんとしようよっ！

ブランド	Candy Soft
ジャンル	新・姉属性ハートフル恋愛アドベンチャー
発売日	2010 年 7 月 30 日

■大人数でワイワイと！

前号の会報では、発売日の関係から体験版段階でのレビューしか載せられませんでしたが、今回はプロローグ後の本編のレビューを。以下、まったくのネタバレ無しではありませんが、楽しみを損なわない程度に核心は伏せたつもりです。

さて、プロローグ編では、つらいことが重なって北海道に渡った弟・走馬が３年ぶりに実家に帰還したシーンからスタート。いまだ家族と距離を置く走馬の A.T.フィールドを、お姉ちゃん達の愛が優しく溶かし、今ふたたび家族の絆を取り戻す……といった、これだけで量的質的にも１本のゲームとして成立する内容でした。

本編のシナリオ構成は、開始直後、学園の選択授業決定シーンで攻略対象（８人）を選び、あとは各ルートが展開するもの。共通ルートはほぼ皆無で、ダレることもなくボリューム感たっぷり。バッドエンドもなく、純愛を貫ける内容になっています。

どのルートを選んでも、その姉とサシで話が進むような寂しいことはなく、家族・ご近所・学園の仲間達に囲まれ、背中を押されながら意中の姉と結ばれていきます。

たとえ大人数の姉キャラが登場しても、ただ単品の姉が寄せ集められただけ的な姉ゲーもある中で、それぞれの姉が互いに関係を持って、一つの家族、一つのコミュニティを形成している……　そんな理想的な姉ゲーの形を実現していました。

■本格的な姉ゲーなればこそ…

周囲の人物が個性的で活き活きしている一方、我々の分身である主人公・走馬が、プロローグ編とあまり変わらずネガティブ思考に陥りやすい人間で、どうにも馴染めなかったのは、多くのプレイヤーも感じるところではないでしょうか。

脱衣所で服を脱いでいた姉さんとバッタリイベントに遭遇したら、ゴメンッ！と回れ右して「やっちまった……でもラッキーかも？」くらいが平均的な男子像だと思うのですが、走馬君は「バッカ野郎……ッ！今、なに考えてた……やめろ、やめろ。欲情するなっ。」と自己嫌悪でふさぎ込んでしまう性格。どんなささいなことでも悪い方へ考える悲観的な性格はプロローグ編止まりにして、本編では姉いっぱいの環境で、困難にも前向きに姉ライフを楽しむ様子を期待していただけに、残念な設定になっていました。

そしてもう一つ、姉ゲーマニアならばどうしても気になってしまう点。それは、いくつかのエンディングが、姉弟脱却志向になってしまっていたこと。

走馬は早くに両親を亡くして、一条家に引き取られた「もらわれっ子」。姉弟同然に育てられてきた彼が、一時ゆらいだ姉弟愛を取り戻したのがプロローグ編であったのなら、それを一層深めて極めるのが本編の役割ではなかったか？　もともと他人同士だった人間が、本物の姉弟にも負けない絆

を育んだのに、男女関係・恋人関係に成り下がる必要などどこにもない。

この人と**姉弟として**一生生きていこう。そんなストーリーを大半の姉ゲーファンは望んでいたはず。だってこの作品のタイトルは「**姉ちゃんと**しようよっ」なんだから！

■キャラクター

・一条楓子（長女）

いつもにこやかで温厚。優しくて、面倒見の良いお姉さんの見本のような人。

一家の家事をそつなくこなし、悩みなど持たない姉さんだと思っていましたが……

「掃除して、お洗濯して、料理して……
お母さんの代わりに偉いね～って。お母さんの代わり……代わりに……
私のしてきたことって、それだけ。」

母親代わり、なんて言葉は、姉の個性を表す聞こえの良い言葉として使ってきましたが、それは本当に姉さん個人を見つめたものだったのか。姉さんは姉さんであって、誰かの代わりではないのだ。

あれ？　もしかして俺、今までそんな目で見た姉がいたんじゃないだろうか。そんな視点まで与えてくれるストーリーでした。

走馬の働きにも光るものがありました。

・一条灯華（次女）

学園では生徒達の信頼を集める立派な理事長先生。家ではぐうたらお姉ちゃんなのは、本編でも変わらなかった！

しかし、根はしっかりしていて、単なる怠け者ではないことは、付き合ってみればすぐ分かること。

本編では、姉弟が頼り頼られること、甘え甘えられること……そういった関係を掘り下げ、提示してくれました。

「お姉ちゃんは、走馬のためならなんでもできちゃうんだから」
「走馬に頼ってもらうために、お姉ちゃんはいるんだよ？」
「お姉ちゃんになら、迷惑かけていいの。家族なんだから、迷惑は迷惑じゃないの」

・一条境（きょう）（三女）

クールで無口（口べたとも言う）、家族の中でも浮いた様子の謎多き境姉さん。彼女のルートは、闇に展開する熱き闘いを描くものでした！

完全新作とは言え、やはり『姉しよ』。こんな非日常系のストーリーが１本くらい混じっている方が楽しいものです。

前作のあれを意識して、とりあえず入れてみました、のような安っぽさはなく、最後まできちんと貫ききった本気を買います。

人によっては好き嫌いが分かれるかも知れませんが、姉をサポートしたい、姉を支えられる弟になりたい、といった弟心をテーマにした姉ゲーの枠は外れていませんでした。

・一条鈴音（四女）

走馬と一歳しか違わず、遊び仲間のような間柄の鈴音（ゲーム内に準じて呼び捨て）は、ずっと一緒にいても退屈しないお姉ちゃん。いつも元気で、遊び相手になってくれるような姉が好みのプレイヤー

には、十分すぎるほどの姉でした。体験版でウマが合うと感じたならば、その期待にきっと応えてくれるハズ。

彼女に秘められたサプライズもキャラクターによく似合っていて、魅力的なストーリーに仕上がっています。それだけに、姉弟関係から恋人関係に転落してしまうのは惜しいの一言。

・一条澪緒（五女）

純真無垢な性格と、少々たどたどしいしゃべり方だけ見れば、正直「姉」にはほど遠いものの、精神面ではお姉ちゃんしてくれていました。

しかし、小さい子という色眼鏡で見ていると、彼女の真意を読み取るのは至難。内心を吐露するシーンで思いは読み取れますが、それより先に澪緒ちゃんの気持ちをつかみ取れるプレイヤーがいたら、貴弟は本物の姉ゲーマスター！

・明日原ミサ（明日原家長女）

ミサお姉様はどこまで行っても男前でカッコ良かった！　自信家でプライドは高いが、高飛車ではなく、人情に厚くて家族思い。

隣のお姉さんとはいえ、我が弟同然に扱い、下着姿さえ遠慮の無い様子。酔って絡んで来るのは本当に嬉しくて困りもので…。

手の届かない美女が自分に構ってくれて、自分を認めてくれるシチュエーションは、己に自信が持てず、小心者の自分にとって、どストライクでした。

初めての一夜は、本作内で興奮度ＭＡＸを記録しました。

「そう……なら、抱きなさい」
「やっぱり……私が上、あなたが下。この方が、しっくりくるわ」

・明日原アルル・クララ（明日原家双子次女）

短気で気性の荒いルル姉と、にこにこ笑顔を絶やさないララ姉。明日原家の家族が上手くまとまっていないことを象徴する二人。これにはもちろん原因があり、家族が中心的なテーマにはなっているのですが、姉要素が無くても成立してしまう話。二人のお姉さんらしさを重視した展開を望みたかったところです。

・クローディア・ギグス（先輩）

学園自治会役員の先輩。大和撫子で礼儀正しく、凛々しい女生徒。

彼女は、何人かクリアした後に攻略可能になります。

姉属性持ちには先輩属性も多いので、これは嬉しい延長戦。

■もっっと姉ちゃんとしようよっ！

個性豊かな姉達、大家族感、明るい笑いのギャグ要素は大満足。走馬の落ち込みやすさ、姉弟脱却志向のマイナス点を天秤にかけてもプラスであると評価します。それだけ、両家のお姉ちゃん達は魅力的でした。

近くファンディスクも発売するそうで、また一条家の子になれる日が楽しみです。

ネコあね。

著者	奈良一平
発行	講談社コミックス（別冊少年マガジン連載）
発行日	2010年9月17日

少年の名は御堂銀ノ介。

祖母と飼い猫・杏子とのんびり暮らしていたはずが、ある朝突然、猫の杏子が人間に化けられるように!!

かつて、お婆ちゃんと交わした約束を守り、銀ノ介の“姉”になろうと張り切る杏子だったが、失敗続き……。

しかし、杏子の“姉心”を知った銀ノ介は温かく見守ることに。

“お姉ちゃん”と銀ノ介のじんわり生活スタートです。

■猫又お姉ちゃん、誕生

せっかく姉属性に目覚めたのに、リアルではお姉ちゃんがいないことを嘆き、「ある日、目が覚めたらお姉ちゃんができていたりして…」なんて妄想をする弟たちの悩みは本当に深刻なのでありまして、もはや叶わぬ夢と悟った者はフィギュアや抱き枕を姉に見立てて満たされぬ思いを解消したりするものですが、飼い猫を姉に見立てる飼い主も現実には存在すると聞きます。猫の○歳は人間の△△歳に値するから、俺にとっては姉ちゃんだ、という理屈で。

涙ぐましい努力と笑う奴は笑えばいい。でも、筆者にはその気持ちがよく分かる。構って欲しい時はこちらの事情もお構いなくじゃれついてくるのに、自分の気が向かない時はツンとそっけない態度を取る自由気ままな性格の猫だったりすると、気分屋の姉キャラに通じるものがあって、猫姉さんと呼びたくなるものなのです。

さて、今回紹介する漫画『ネコあね。』は、ある日我が家の飼い猫が、猫又（猫の妖怪）になることで人間化して、主人公のお姉ちゃんになってくれる……　そんな夢のあるお話です。

■各話紹介

第１話「よろしく。」

主人公・銀ノ介は早くに両親を亡くして、祖母と二人暮らしをしているほかは、ごく普通の少年。

ある朝、布団の上に乗っていたのは、いつものように飼い猫の杏子（あんず）ではなく、人間化して人語を話す杏子の姿でした。

初めは飼い猫の杏子が人間化したことを信じられなかった銀ノ介も、彼女の猫耳と二股に分かれたしっぽを見て、事実を受け入れざるを得ません。

当の杏子ちゃんは、人間化した自分自身

に戸惑いつつも、どことなく嬉しそう。人間に変身できたことの好奇心からなのか、それとも長年の願いが叶ったからなのか。

思わぬ天からの贈り物に、自然と顔がほころぶ彼女の顔を見ていると、猫耳の相乗効果で愛らしさ爆発！

そんな彼女は、自分のことを「お姉ちゃん」と呼び、銀ちゃんこと銀ノ介のお世話をしてあげようと学校に押しかけてきたり、遊び相手になってあげようとしたり、果ては一緒にお風呂まで。

しかし、せっかくの努力も、人間的に未熟な故に失敗の連続。

「私 上手に銀ちゃんのお姉ちゃん出来ないよぅ…」

泣いてしまう杏子。

人間になれて真っ先に考えたこと、それは銀ノ介のお姉ちゃんになることでした。

――昔、両親を亡くした銀ノ介が祖母宅に引き取られてくる前日、お婆ちゃんは猫の杏子に「お姉ちゃんとして仲良くしてあげてね」という約束をした時から、杏子は、いや杏子お姉ちゃんは、ずっと銀ノ介のことを姉の目線で見守ってきたのです。

それから七年。思いがけず人間化した彼女が真っ先に感じたのは、「銀ちゃんの本当のお姉ちゃんになれたんだ！」という喜びに違いありません。

なのに、銀ノ介に姉らしく構ってあげられない自分に焦り、一度はくじけてしまうのですが……。

杏子姉ちゃんが今までずっと自分のことを見守ってきてくれたことを知った銀ノ介。

上手くお姉ちゃんすることができずに悩む杏子姉ちゃんの気持ちを理解し、人間と猫又のちょっと変わった姉弟の絆が生まれるのでした。

と、ここまでが第１話。

少年マガジンの公式サイトでは、第１話の試し読みができます。

第２話「おでかけ。」

大事な弟とおしゃべりしながら学校までお見送りしたい杏子お姉ちゃん。

でも、目立つネコ耳姿で外出することはダメと銀ノ介に諭され、仕方なく猫の姿[1]で出歩くものの、せっかく人間になれたのだから、銀ちゃんとお婆ちゃんと一緒にお出かけしたいにゃあ、と悩むお姉ちゃんに銀ノ介は……。

[1] ある程度、自分の意思で猫の姿に戻れるのです。

姉ちゃんと弟が仲良く一緒にお出かけ。そんな何でもないことが、もともと猫だった杏子お姉ちゃんには憧れでした。銀ノ介も、何だかんだ言って、お姉ちゃん思いであることが伝わります。

第３話「おもてなし。」

銀ちゃんがお家に同級生の女の子を連れてきた！　さあ大変。お姉ちゃん、きちんとおもてなししてあげなきゃ！　もちろん、猫又であることがばれないように……。

↑妬いているのではありません。弟のお客さんを大事におもてなしするのは、デキる姉として当然なのにゃ！　という考えから張り切っちゃっている可愛い姿なのです。

果たして上手にお姉ちゃんすることができるのか？　頑張れ杏子お姉ちゃん！

第４話「お姉ちゃんは…。」

本を読むことに目覚めた杏子お姉ちゃん。字の読み書きを銀ノ介に教わることになりました。

読みたくなったのは絵本ではなく、小説『姉弟日記』。理由は、普通のお姉ちゃんのことを知りたかったから。ところが……。

途中、思いがけない所でしんみりする場面が現れます。人間の姿として付き合うのはつい最近のことだけど、お姉ちゃんは猫の時からずっと銀ちゃんを見守っていたんだよ、ということがよく伝わるエピソード。

第５話「宿題のおてつだい。」

近所の八百屋の子・恵美ちゃんが、夏休みの自由研究として猫の杏子を観察することになったため、一日通して猫の姿で過ごすことになった杏子お姉ちゃん。銀ノ介も観察に付き合うことになって……。

この話も、後半の思いも寄らない所でドキッと来る場面があります。銀ノ介にとって、彼女が既にかけがえのない大事な姉であり、家族になったことがありありと伝わる良い演出。弟側の気持ちをここまで上手く描くのは容易なことではありません。お見事。

■ネコお姉ちゃんのじれわり生活

コメディかつハートウォーミングな姉漫画として、誰でも楽しめる傑作です。

心はすっかり姉なのに、人間生活慣れしていないばかりに空回りしてしまうコミカルな杏子お姉ちゃんの姿が、優しい世界観の中で光っています。

笑いも、萌えも、ちょっとシリアスな部分も、ほとんどが「姉」に絡んでいて、姉属性読者の心に響く。何度でも読み返したくなるような作品でした。

２巻も楽しみな作品です。

姉婚（シスコン）

ブランド	あるてみす。
ジャンル	あねもえアドベンチャー
発売日	2010 年 8 月 14 日

「姉貴！　俺と結婚してくれ！」

１５年越しの想いを伝える思い切った告白。

「.....はい」

その告白は、キスという最高の形で報われた。

ずっと好きだった姉貴と、今から俺は、婚約者。

「幸せにしてね」

「ああ」

小さな手のひらをちぐはぐに握りしめ、力強く頷いた。

キスの仕方すら不慣れな 2 人で仲良く、ゆっくり一つずつ覚えていこう。

どんどん深く、甘く、幸せにはまっていこう。ちぐはぐな手の握り方が、自然と握れるようになれるまで――。

それは、まるで太陽のような、あつくて直視できない夏恋物語。

■夏の姉ゲーといえば！

『姉 SUMMER!』シリーズを制作した「あるてみす。」のライター・天姫あめ氏×原画すめらぎ琥珀氏による姉ゲー新作。

以前から天姫あめ氏の姉属性は、その作品やブログだけでなく、自ら出演する Web ラジオでもアピールされていたところ。彼は今や姉ゲー業界屈指のクリエイターと全姉連が勝手に認定しています。

天姫あめ氏の評価を一気に高めたのは『姉 Summer!2』であることは、おそらく間違いありません。（※『姉 Summer!2』のことを思い出して、これを書いている今、ディスクを引っ張り出してプレイしていたら止まらなくなった。）

そして 2010 年・夏。『姉婚（シスコン）』なんてタイトルを付けられたゲームに飛びつかない理由など、どこにもないのでした。

■婚約以上結婚未満

『姉婚』の「婚」は婚約の「婚」。

主人公は二十歳の社会人・伊達雅洋と、その実姉・晶お姉ちゃん。早くに両親を亡くし、姉弟寄り添って生きてきました。

この夏、お姉ちゃんが弟のプロポーズを受け入れ、晴れて婚約者になるところから物語は始まります。

15 年前に交わした「大人になったら、お姉ちゃんをお嫁さんにする」という約束。もともと仲の良かった姉弟でもあり、戸惑いながら OK して嬉し泣きするお姉ちゃんの姿は、開幕早々エンディングの勢い。

「姉貴！俺と結婚してくれ！」
「……でも、私、年上だし」
「関係ない」
「でもでも、私、ひろ君のお姉ちゃんだし」

この後、姉弟の関係に加えて婚約関係を結んだ二人のイチャラブ模様を描いたシーンが中心となります。

姉弟としての関係は失わず、愛を誓い合った関係がプラスされた様子が強調されていて、「結婚したら姉弟じゃなくて夫婦」みたいな勘違い表現は一切排除！　弟も、「彼氏になっても弟なんだと思う。」「だから、目の前のこの人を、姉として女として愛したい。」と、自分達が姉弟であることを見失わず、大事にしています。

昔から心の中で好き合っていただけなので、キスすら交わしたことのなかった二人。実の姉弟ならではの気心の知れた二人でも、愛し合うことにはまだまだ不慣れで、一つずつ確かめ合いながら関係を深めていく様子を丁寧に追った描写は非常に好印象。姉ゲーにベッドヤクザは要りません。

まだ正式な結婚を経た夫婦でもなく、しかし単なる姉弟でもない「婚約者」の時期をとらえ、愛し合う姉と弟の姿を前向きに描いた姉ゲーは、あまり類を見ません。

人生の節目である結婚を控えて、それぞれが過去を振り返り、将来を考え、姉弟愛を深める濃い期間を甘く描いた作品。そんな感想を持ちました。

■近親婚、ってことは……？

実の姉弟で婚約？　結婚？

という点で何となく引っかかっていた読者諸弟の疑問はごもっとも。

姉ゲー慣れしたマニアなら、「いわゆる事実婚扱いでしょ」とスルーしたかも知れませんが、今回は正式な法律婚です。

というのも、この世界では少子化が進んで近親婚が解禁された、との設定なのです。

これには、「実姉萌え最大の難問をばっさり切り捨てたなぁ」との印象を受けました。

姉モノで背徳感を演出するかどうかは重要な選択。背徳感を持ち出さないなら、それはそれで結構なのですが、実姉弟を主役にして婚約（結婚）をテーマにするのであれば、そこは正面からぶつかった方が良かったのではないでしょうか。

法律は許しても世間の目は厳しくて…という訳でもなく、本作では主人公以外の登場人物が会社の上司や、姉の勤め先の保育園の園児程度の限られた世界なので、世間の目はあまり意識されません。

また、ストーリー終盤に、主人公を悩ます人生の選択肢が立ちはだかるのですが、姉弟関係特有とまでは言えない普遍的な問題で、姉ゲー上での意味は薄め。

本作が実用志向の作品ならともかく、『姉Summer!2』で見せた姉弟関係の深い考察を期待していたファン層には、少々物足りなく映ってしまったかも知れません。

■キャラクター

・伊達晶（実姉）

誰よりも弟を愛し、大事にする優しい姉。

保育士だけあって、子どもに好かれる温かい人柄のお姉さんです。

性格は真面目な方ですが、弟ラブモードに入るとちょっと大胆になり、「弟のおちんちんはね、お姉ちゃんの玩具なんだぞっ」みたいなドキドキお姉さんに。

また、彼女は自分が姉であることを誇りに思っていて、

> 「姉ってね弟か妹ができてこそ手に入れられる称号なのよ！　だから、血を分けてから姉って名乗るべきよ！　何でもかんでも姉って名乗って……ぶつぶつ……姉は数じゃないわよっ！　血統と希少性よっ……ぶつぶつ」

これはライター氏の姉萌え論か！？

■本腰入れた大作希望！

姉弟の訳ありの過去が匂わす程度にとどまっていたり、近親婚にまつわる困難を避けていたりして物足りない面もありますが、姉と弟の近い距離感や、姉弟愛溢れる睦み合いの描写は、センスが光っています。

2000 円のコストパフォーマンスは十分評価できますが、そろそろミドル、フルプライス作品にも挑戦してみて欲しいですね。

オレの姉ちゃん

～オレは姉ちゃんのオモチャじゃないっ！～

メーカー	LoveJuice
ジャンル	お姉ちゃん達にいぢめられちゃうAVG
発売日	2010 年 7 月 30 日

主人公・成瀬ハルキは三人の姉に囲まれて賑やかではあるが平穏な学園生活を送っていた。

そんなある日、ひょんなことから幼馴染からラブレターを貰ったことを姉たちに知られてしまう。

三人三様の反応を見せる姉たち。

この日を境に何故か三人の姉たちが毎日色仕掛けの悪戯を仕掛けてきて!?

理性と巨乳との狭間で主人公の理性は決壊寸前!!

幼馴染も巻き込んで姉たちとの H な学園生活が始まる！

■姉・姉・姉の3姉妹モノ

優しくて甘えさせてくれる姉、クールでカッコイイ姉、弟ラブなのに素直じゃないツンデレ姉。例えばこんなお姉ちゃん達が１本で楽しめる３姉妹モノが好き！

しかも、複数でつるんで弟を可愛がってくれたり、時には取り合いなんかもしちゃったり。姉が５人も１０人も登場するような、リアルではあり得ない姉ゲーも夢を見させてくれる点で大好きだけど、３人姉はギリギリでリアル感があって大好き。

３姉妹モノでも「姉・姉・妹」なパターンがありますが、今回は紛れもなく「姉・姉・姉」の姉フィーバー！

■うちの弟にラブレターが!?

主人公は、取り立てて特徴のない普通の男子。両親は転勤で不在の家庭で、姉３人と同居の身。「姉３人」「同居」だけでセレブ弟確定なんですが、彼は姉のいる幸せを大して気に留めていない様子。おい！

その主人公が、一つ年下の幼なじみにラブレターをもらったところからストーリーは始まります。「俺には姉ちゃん達がいるから」と、あっさり断るのが正しい弟の姿なんでしょうが、そこは話の都合上、一応は驚いて、大事にしまう主人公。しかし、すぐに姉の１人にバレることになるわけですが。姉の前に弟のプライバシー無し。姉達からラブレターの件で問い詰められて…

「それで？　なんて返事したの？　ごめんなさい、お付き合いできません、って？」

弟がラブレターに OK するという答えは、お姉ちゃん達の頭に無いようです。

この日から、お姉ちゃん達の様子に変化が生まれます。

■姉はブラコン。弟は……

ついにうちの弟にも悪い虫が！？

可愛い弟がラブレターに返事をしたのか興味津々（あるいは戦々恐々）なお姉ちゃん達の落ち着かない姿に、内心に秘めた弟魂（ブラコン）を感じ取れて、読んでいるこちらは思わずニヤニヤ。

なのに、主人公は「関係ないだろ！？　もううんざりだ。なんでこんなにも干渉されなきゃいけないんだ。」と突き放します。

んんん……これはちょっと違うなぁ。

姉キャラが大好きな姉属性プレイヤーな

ら、決してそんな風に冷たくしない。「困った姉ちゃん達だな、ははは」程度で軽く流すのがスマートで好感の持てる弟の対応。

何もこの部分だけをあげつらっているわけではなくて、この弟、あまりシスコン要素を持っているように描かれていません。どう見てもターゲットを姉属性持ちに絞った姉ゲーなのに、主人公がそんなに姉を愛していないとか、誰も望んでいないように思うけど……。でないと、お姉ちゃんといい事しているシーンが、単にがっついているだけの安っぽい印象になってしまいます。それでいて、姉と一線越えた後は罪悪感でひどく落ち込むのも中途半端な印象。

一方、お姉ちゃん達は三者三様のブラコンの持ち主なので安心。ストレートに愛情表現してくる長女姉。冷静で理性的な態度で弟に迫る二女姉。アンタなんてアタシの下僕なんだからぁっ！　と強気な態度でブラコンを隠す三女姉。３人が入れ替わり立ち替わり、家で、学園で、弟を誘惑し、自分のもとに引き留めようと奮闘します。

基本的に本作は実用志向の作品です。姉に言い寄られ、嬉しいいたずらをされ、振り回される様子を面白おかしくＨに描く内容で、きちんと実用性を兼ね備えている点では合格。共通ルートでは姉３人の間の掛け合い、駆け引きが織り込まれ、終盤の１～２シーンで各姉ルートに分岐。各姉ルートそれぞれに純愛エンドと下克上エンドが用意されています。お姉ちゃんに従順な弟も、やんちゃしたい弟もどちらも対応できる万能型の姉ゲーです。

■キャラクター

・成瀬あやめ（長女）

明るく積極的、ノリも良くて家事もできる、一家の中心的なお姉ちゃん。弟のことは誰よりも可愛く思っているブラコン姉。

ラブレター事件も、応援する気持ちより「負けてられない」の気持ちが上回って、夜這いまでかけちゃうお茶目な姉さん。

「私すっごく心配したのよ！？　ハル君に彼女が出来たらどうしようって！　私の可愛いハル君に彼女なんて……」
「弟の”はじめて”はお姉ちゃんのものなのぉ」

・成瀬楓（二女）

タイトスカートと数学教師の肩書きがよく似合うクールな二女お姉さま。

クールと言っても冷ややかな印象やＳっ気はなく、冷静に計算高く弟を独り占めして味わうタイプ。

「ハルキに彼女なんて、まだ早いでしょうし」
「何を言っているの？　あなたは弟、私は姉。これは命令なのよ」

・成瀬茉莉（三女）

金髪ツインはツンデレ姉の印。主人公にとって双子の姉で、成績優秀かつプライドが高く、弟のことは下僕か奴隷扱い。まあ、ケンカするほど仲が良いってことで。高圧的な態度に隠されたブラコンの顔を拝めるまでは、じっと耐えること。

「私はアンタの姉なのよ？　アンタは弟、弟といえば姉の下僕と相場が決まってるでしょ！？」
「ホントに、私の言うことをちゃんと聞かなきゃダメだからね……？」

■実用志向の本

姉ゲーとしては勘違い場面が若干あるものの、実用品と割り切れば必要十分。弟の欲望が溜まった時の備えにお一ついかが？

姉は嫁

著者	音音（おとね）
発行	コアマガジン
発行日	2010 年 9 月 8 日

■音音先生2冊目の…

弟読者が待ちこがれた姉系専門の漫画家・音音先生のコミックス２冊目が、満を持して発売。

音音先生ご本人は大変気さくな方で、光栄なことに全姉連会報の表紙を描いていただいたこともあるのですが、本書の発売後には小弟が企画したプライベートサイン会にも快く応じていただきました。

そこで、今までお聞きしたことのある音音先生のお姉ちゃん秘話を、同志の皆さまにもおすそ分け。

その１　歳の近いお姉ちゃんが欲しかった

音音先生は、10 歳近く年上のリアルお姉さまがいらっしゃるそうです。

もうお姉ちゃんがいるのに、姉作品を創作する勝ち組クリエイターって何なの！というやっかみはさておき、歳の離れた姉の下で育った音音先生は、もっと歳の近いお姉ちゃんが欲しかったんだそうです。

あ、でもこれは分かる。あくまで年上だけど、歳が近いから気を遣わない関係の異性って、姉のいない自分にとっても憧れだから。10 歳も年上だと、家族とは言え年代差も生まれてしまいますからね。

その２　姉漫画家業は姉公認？

「リアル姉持ちだけど、姉漫画や姉ゲーはお姉さまに見つからないようにこっそり隠し、自分が姉属性であることも内緒にしている」っていう弟くんは挙手！

いや、いいんです。先生は怒りません。そっと秘めておきたい気持ちはよく分かります。

ですが、音音先生のお姉様は、自分の弟が姉漫画を描いていることをご存じだとか。さらには、弟が漫画家としてやって行けているのか、お母様と一緒に気にかけておられるのだとか。

何という弟思いのお姉様。オタクというだけで毛嫌いする兄弟姉妹も世の中には多いのに、そこのところ理解のあるお姉様は良いお姉様だと思います！

と、羨ましい弟経歴を持つ音音先生の新刊『姉は嫁』の内容をご紹介。

「姉は嫁」

表題作となるこのお話は、愛するお姉ちゃんに弟クンがプロポーズの言葉と一緒に差し出したウェディングドレスを着てもらって…というもの。

血のつながった姉弟での結婚。法律も世

間も認めてくれないけれど、二人で永遠の愛を誓うことは出来る…。そんな音音先生の主張がにじみ出るストーリーに大共感。

お姉ちゃんのウェディングドレス姿は、美しい表紙カバーのイラストでじっくりとご覧あれ。

「ウチの姉がこんなに可愛いわけがない」

背が高くて髪はショートカット、流行もあまり知らず、短気なせいでつい弟にチョークスリーパーをかけてしまうような姉ちゃん。ある日、姉ちゃんの提案でレジャープールに出かけた姉弟二人は……。

いつも家の中で見る不機嫌そうな姉ちゃんが、外では急に可愛く見えてしまって戸惑う弟と、姉であると同時に女の子であることも認めてもらいたいと思う姉ちゃんの思いがぶつかり合って、姉弟はプールの物陰へ。

まさにタイトル通り「ウチの姉がこんなに可愛いわけがない」お話。普段乱暴なお姉ちゃんのしおらしい面を見て、どうしようもなく愛おしくなってしまうギャップが見どころです。

「姉ちゃん流　生き方だゾ」

弟の体育着やリコーダーを勝手に借りて使う姉は、今日も保健室でぐーたらお昼寝。

「エコよ、エコ。」と変な理屈をこねて逃げられ、歯ブラシまで共有する姉に対し、「自分の気も知らないで…」と思った弟はついに！

本作の姉のモデルはクレヨン某ちゃんの登場キャラ。音音先生は「姉がむ○えちゃん、弟がし○ちゃん」と見立ててアニメを見ていたとか。分かるなあ、それ。

「姉の背中を見て育つ？」

ヒロインは、弟とはちょっと歳の離れたもう大人で母性豊かなお姉ちゃん。

目に入れても痛くないほど可愛い弟はいつまで経っても子ども同然で、いつまでも姉の私に甘えて欲しい気持ちで一杯。嬉しいはずの弟の誕生日も、また一つ大人になっちゃうのね、と寂しがるほど。

一方の弟は、もう自分は子どもじゃないと背伸びするが、お姉ちゃんの甘やかし攻撃に押されてしまい……。

本書の中でもひときわ激甘お姉ちゃんで、甘えたい盛りの弟読者には大満足のお話。

たとえ大人になっても、お姉ちゃんになら甘えたっていいんだよ、というメッセージが伝わってきます。

■姉萌えコンテンツ満載！

紹介した話以外にも、メイド喫茶のお姉ちゃん、凛々しい剣士姉、一見お堅い姉教師など各方面取りそろっています。

各話ごとに描き下ろしイラストがあり、姉萌えに関する熱いコメント付き。姉コミック好きの読者なら「そうなんだよ、分かるよ！　と共感間違いなし。姉属性なら隅から隅まで楽しめる１冊です。

お姉ちゃんだって痴女になれるもん！

著者	古田航太
イラスト	蓮見江蘭
発行	フランス書院美少女文庫えすかれ

舞耶、ちゃんと痴女になれるもん！

天然ブラコン姉が勘違いから大胆痴女に大変身!?

初咥えから淫語フェラで見せつけごっくん！

初体験は騎乗位で撥ピストン！

可愛い弟クンを何度だって搾ってあげる☆

セーラー服で、ハートギャルファッションで、

ヴォンデージで、いっぱいいっぱい食べちゃうぞ！

■「姉×痴女」のイマ昔

『お姉ちゃんだって痴女になれるもん！』

このタイトルを見て、読者諸弟はどのように感じるでしょうか。

もっとも目を引くのは、もちろん「痴女」の部分。

姉と痴女。この組み合わせは、小弟にとって長らくマイナスイメージでした。

最近はあまり見かけなくなりましたが、筆者の記憶では 00 年代初頭、成年コミックで特定の属性のアンソロジー本が出されていて、姉モノも当然ありました。まだ駆け出しの作家をかき集めて「姉が登場する漫画を描け。以上！」と号令をかけていた…のかどうかは知りませんが、そんな風にして出来上がった本が結構あったのです。

しかし、これがどうにも姉属性達の荒ぶる姉魂を鎮めてくれるようなものではなく、「姉さえ出せば姉漫画」の悪しき見本のオンパレード。中でも、本当にがっかりなのが「姉＝痴女」型の漫画だったのです。

まあね、年上の女性である姉を登場させる場合、妹キャラと比較して、姉が主導権を握るものという一般的な観念があるのは否定しません。

が、姉自身の欲望を満たすため、弟のカラダ目当てで下品なセリフと行為に及ぶ痴女姉のおぞましい姿に、真のアネスキーならばちっとも興奮なんかしやしないのです。お姉ちゃんのなすがままにされることは望んでいても、弟はお姉ちゃんの慰み物じゃないんだから。

ただ、弟のことを愛する気持ちが高まって、あふれ出る弟魂（ブラコン）が姉を痴女化させてしまったのなら、しょうがない。ええ、しょうがないんです！

本作は、弟を愛しすぎてしまった姉の、愛情表現として痴女化しちゃう姿を描いた、ちょっとおかしな姉弟ラブストーリー。

■「痴女になることですわ！」

主人公・神尾優登は高校２年生。背丈は 150cm にも満たず、見た目は中性的で、性格は大人しい男の子だが、弓道部のエース選手。

そんな彼には、一つ年上の実の姉、舞耶お姉ちゃんがいます。身長 168cm、G カップの完璧なスタイル、成績優秀。しかし、運動や家事は苦手、性格は天然で少々おっちょこちょい、人を疑うことを知らなくて、口調もはわわ型。

舞耶お姉ちゃんは、可愛すぎる弟の寝顔

を見ているうちについキスしてしまいそうになっていることにハッと気付き、「舞耶はブラコンとかじゃないんだから！」とぶんぶん否定しちゃうようなお茶目姉。

ある日、ふとしたきっかけで弟を想う気持ちが臨界点に達し、ライクからラブへと進化したのはいいものの、この気持ちをどう扱えばよいのか分からず、学園の一つ後輩で日仏ハーフの超お嬢様・エリーに相談を持ちかけます。

ちなみにこのエリーさん、同性である彼女を舞耶先輩と呼んで病的なまでに慕う一方、その弟の優登には関西弁で激しい剣幕を見せる、かなり特殊なお嬢様で、非常に愉快なキャラクターなのですが、ここで詳しい紹介は省略。

舞耶お姉ちゃんは、好きな人が弟であることを伏せて、エリーさんに恋愛相談をしたところ、その回答は「痴女になることですわ！」というもの。

性的な事にはまるでウブで、弟くんの起こしに行って、弟の股間の膨らみをみつけてしまって「病気かな？」と心配してしまうほど天然な舞耶お姉ちゃんに、よりによって痴女になれとは！

貞淑なレディーである舞耶姉が「突然に淫らになれば、そのギャップに殿方は間違いなくメロメロになるのです。」との言葉を信じてしまい、いくつかのアドバイスを受け、まるで暗示にかかったかのように優くんを誘惑する作戦に取りかかるのでした。

■恥ずかしがりのお姉ちゃんが…

普段は慎ましくてお淑やかなお姉ちゃんに「痴女になれ」とは一体どんな了見なのか？　一見、突飛な展開に思われたのですが、これが悔しいほどエリーさんの思惑通り。それまでの貞淑なお姉ちゃんが一変して、エッチでいけないお姉ちゃんになった時のギャップが、想像以上に興奮します。

> 「ほら見て、あーん、お口の中は優登と私のジュクジュクのつばでいっぱいだよ。優登と私の体液カクテル、このふとーい（中略）ちゅるうう、ちゅちゅちゅ（中略）優登の唾液汁で、お姉ちゃんのおクチの中いっぱいにしてもいいのよ（中略）お姉ちゃんおかしくなっちゃいそう…（中略）ぐちゃぐちゃに濡れてきた」

かなり中略を挟みましたが、この部分、実際は十数行に渡って一気に書き下しているのです。この長〜〜いセリフは作品中にいくつもあって、漫画や姉ゲーではお目にかかれない力強い演出です。弟への愛情がほとばしっている様子がありありと浮かんできて、大迫力が味わえます。

また、痴女モードに入ると、女王様気質に軽い言葉責めまで加わるので、M っ弟（こ）クンにはたまらない仕様。

もっとも、こんな状態が常日頃から現れているのではなく、あくまで弟ラブ回路にスイッチが入ってしまった時だけです。事が終わるといつもの天然で恥ずかしがりなお姉ちゃんに戻ります。弟を喜ばせて、姉弟の中を深めるために痴女化しているんだな、ということが伝わるので、読後感もさっぱりして、大変よろしゅうございました。

■愛ある痴女姉よ永遠に

昔のダメな痴女モノと本作との大きな違いは、弟のことを大事に想う気持ちがあるかないか。

姉自身の醜い欲望ではなく、「弟と想いを通じたい」「弟を喜ばせてあげたい」といった気持ちの裏付けがある痴女化は弟にとっても大歓迎。

当たり前過ぎる結論ですが、やっぱり最後は「姉弟愛」。これに尽きるんじゃないでしょうか。

ラブプラス　カノジョの過去

著者	若宮弘明
発行	講談社アフタヌーン KC
発行日	2010 年 11 月 5 日

■おおぉぉっ…リンゴ”姉さん”！

まさか**リンコ姉さん**なんて呼ぶ日が来ようとは、１年前の俺には想像付くまい！

先輩、同級生、後輩の３人を配置した「ラブプラス」で、迷う余地なく寧々さんを選んだ彼氏ばかりが占める全姉連の同志達に今あえてお勧めするリンカレ生活！

物憂げな瞳で人を寄せつけないオーラをまとい、図書委員として初めて出会ったときもそっけない態度。取っつきにくい後輩ヒロイン、小早川凛子。姉スキーには受ける要素のない彼女だが、実は弟持ちの姉であると知ったらどうよ！？

いつもの「姉じゃないけど姉だったら妄想」なんかじゃないっすよ。これ、きちんとした公式設定。身のまわりがあまりに寧々さん一筋の人ばかりで気付かなかったんですが、彼女はゲーム本編でも弟の話をよくする、弟思いの一面があるのです。

今回紹介するコミック版は、リンコ姉さんの中学生時代をコナミ監修で描いたもの。

７年前に母を亡くし、父と二人暮らしの気ままな生活。読書、洋楽、格闘ゲームが趣味だが、恋愛にはあまり興味のない彼女。

ある日、公園で出会った幼稚園児・快くん。彼は、父が再婚を考えていた相手の息子―つまりは義弟になる子―だったことから始まる、リンコ姉さんの揺れ動く心情を綴っています。

確かに実の姉弟ではないが、ここではリンコ姉さんの、眠っていた姉性に注目していただきたい。

初対面のシーン。義弟になるとはまだ知る由もないのに、一人称を「私」とせず「お姉ちゃん」にしたセリフ。これは素晴らしい。後輩キャラの固定観念を鮮やかに打ち壊し、年下の男の子に愛情を注ぐことができる性格をよく表しています。

亡き母を思う複雑な気持ちでなかなか前向きになれない中、快くんにだけは心から打ち解けられ、お姉ちゃんの自覚をフルに発揮。遊び疲れた弟をひざ枕で寝かし付ける優しい姿は、本職の姉もハダシで逃げ出すレベル。

これを見て、もう後輩キャラとか年下キャラとかは言わせない！

本作を読んでからセーブデータ 02 を作成し、リンコ姉さんと付き合ってみると、格段に思い入れを持ってプレイできます。

難点は、寧々さんとの二股生活の後ろめたさと、時折頭をよぎる「あれ？　俺って快くんから見たら、お姉ちゃんにたかる悪い虫じゃね？」という罪悪感……。

あねもね☆ろわいやる

著者	本田透 （イラスト・相音うしお）
発行	集英社スーパーダッシュ文庫
発行日	2010年9月30日

■姉・イズ・ビューティフル！

姉・イズ・ストロング！！

弟と結ばれることを目指して、黒姉・白姉・ちび姉など、ひと癖もふた癖もある究極の姉たちが集結する！

これは女の意地を賭けたバトルロワイヤル。はたして弟の愛を受けられるのはどの姉なのか！？

ここに最強の姉小説が開始される！！

評論やライトノベルなど、幅広く執筆活動を続ける本田透先生。氏は、実は熱狂的な姉属性作家だった……ってことは、今さら言わずとも周知の通り。

ライトノベルの『円卓生徒会』、『イマジン秘蹟』には、主人公を可愛がり、溺愛する姉が登場し、その並々ならぬ姉キャラへのこだわりは、ライトノベル界随一。

中でも『がく×ぶる』シリーズの御影ウテナお姉ちゃんは傑作姉で、小弟お気に入りのお姉ちゃんの一人。女王様気質の小悪魔で、弟にちょっかいかけて楽しむようなイジワルなのに、本当は弟のことが大好きで、誰よりも大事に思っているお姉ちゃん。

そんなウテナお姉ちゃんと甘い時間をたっっっぷり過ごせるのが本書なのですよ！

事実上『がく×ぶる』シリーズの番外編となる本書は、冒頭いきなり、弟・美千緒がウテナお姉ちゃんの部屋で、ぎこちなく「はじめて」を迎えるシーンからスタート。

> 「じゃあ、キスして。いつものように、猪みたいに突進してきて歯を当てちゃダメよ。落ち着いて、ゆっくりと」
> 「……う、うん」
> ウテナが、「来て」とつぶやきながらベッドの上に仰向けに横たわって、そしてきゅっと目を閉じた。

普段からは信じられないほど甘いウテナお姉ちゃんの態度。ずっと姉弟として育ってきた相手といよいよ結ばれる感動に興奮高まるその瞬間、美千緒の体に現れる異変。そして、「私、あなたの実の姉なのです」「私もお姉ちゃんです」「私も…」。次々と姉を名乗るお姉ちゃん達が世界中から集結。今ここに、愛しい弟をかけたバトルロワイヤルが始まる！

右を向いても左を向いても姉、姉、姉。姉同士が繰り広げるノンストップ愛憎劇（バトル）は本田先生やりたい放題。

２年ほど前、本田先生とお話しする機会に恵まれた時、先生は「本当は姉メインのラノベを書きたいが、姉は中高生に受けないので書かせてもらえない。いつか思いっきり姉を書きたいんだ……！」とおっしゃっていましたが、この本こそが夢の一冊なんですね！？　後書きにも、著者が本当に書きたかったのは、「姉」「おっぱい」「バトル」がみっしり詰まったこの本だ、と力説。その言葉に間違いはありませんでした。

『がく×ぶる』未読の貴弟は、できればそちらから読み始めてみることをお勧め。

なお、本書は続編も発行される予定です。

【特別寄稿】ある日の柊家

佐々宮ちるだ

その日、我が家の居間では俺の６人のお姉ちゃんたちとおとなりの犬神家のお姉ちゃん、合計８人が珍しく顔を揃えていた。

なにやら雛乃姉さんから招集が掛かったらしい。

「姉さん、今日はいったい何があるんですか？」

「うむ。実は客人が来るのだ。そろそろ到着すると思うが」

「――こ～んにちは～♪」

玄関から女の人の声がする。

応対に出たともねえが連れて来たのは、初めて見る３人の女の人だった。

「おお、よくきたな」

「お招きありがとうございま～す」

帆波ねえやくらいの歳恰好の癒し系美女がにっこり微笑みながら挨拶する。

「みなさんはじめまして。真下まりあで～す。聖母マリア様のまりあで～す」

口元のほくろがセクシーなまりあさんが、見かけに似合わない口調で自己紹介する。

「それで、この子は妹の『のん』ちゃん」

「その呼び方はやめろ――真下まのんだ。便宜上、次女ということになっている」

ちょっとクールな雰囲気で、どこか姉様を思わせる俺と同じ歳くらいの子。

「そして、末っ子の『まる』ちゃん」

「あ、あの、三女の真下まひるです……よ、よろしくお願いします……」

もうひとりは妙にオドオドしているおかっぱの丸眼鏡っ子だった。

「この三姉妹が、我らにぜひとも訊きたいことがあるという」

「そーなの。実はワタシたち、今度ある男の子の『おねえちゃん』になるの。でもみんなおねえちゃんになるのは初めてだし、いろいろと不安もあるのよね。だからそれで……」

「ああっ、回りくどい！　――単刀直入に訊くぞ。『姉』とはいったい何だ？　『弟』とどう接すればいい？」

まひるさんの唐突な質問に、お姉ちゃんたちは顔を見合わせる。

「――あら、簡単なことじゃない」

口火を切ったのは要芽お姉様だった。

「姉というものは、弟の上に絶対君臨する『支配者』よ」

「お姉様、さすがです！　そうよ、イカなんか下僕ですよ、ゲボク！」

高嶺姉貴も羨望のまなざしとともに賛同の拍手を送る。

「おお、そうか。やはり弟に舐められてはいけないのだな」

まのんさんが納得の表情で大きくうなずく。

「あたしは要芽ちゃんとはちょっと違うな。弟はやっぱり、大きな愛で包み込むものよ」

「ま、それステキっ。大賛成しちゃう♪」

まりあさんがねえやに抱きついた。

「弟のために何でもしてあげるのが一番だよ～姉弟ならこれくらい当然だよ～」

「で、でも海の場合はちょっとやり過ぎのような……あう」

「陰からそっと見守るのも姉の務め……くすっ」
「お、お姉ちゃんになるって大変なんですね。はうぅ……」
次々に繰り出される「姉論」にまひるちゃんはすっかりビビってしまっている。
「案ずるな。みなそれぞれ意見はあろうがとどのつまり、肝要なのはこれよ――」
雛乃姉さんが広げた扇子に、大きく書かれていたのは「姉弟愛」という言葉だった。
「愛……！」「愛、なのか……？」「愛、なんですね……」
「うむ。時に厳しく、時に優しく、愛をもって接することこそ、姉の極意なるぞ」
「――おっとっと、大切なことを忘れてるにゃあ」
それまで黙っていた瀬芦里ねぇねぇがすっと立ち上がる。
「やっぱ姉なら、弟にはない『一芸』を持ってることが重要なんじゃない？」
た、たしかにウチのお姉ちゃんたちはみんな個性的というか、他にはない一芸に秀でているヒトばっかりだけど、それって姉の必須条件なのか？
「ん～、芸というか、３人ともちょっとヒトには出来ないことが出来ちゃうわよ？」
「お、おい、待てまりあ。おまえまさか――」
「あら、いいじゃない。減るもんじゃないし」
まりあさんたちにも何か特殊スキルがあるみたいだ。
「はいは～い、それじゃ今からワタシたちのとっておきのワザを見せちゃいま～す」
「くっ……もうどうにでもなれ」
３人は立ち上がると、それぞれ呪文のようなものを唱え始めた。
「ピルリル・マリリル・メリカルル――」
「シュトゥルム・ウンドゥル・ドラッケン――」
「カイグリ・カイグリ――」
次の瞬間、眼もくらむような閃光が居間を包み込んだ。
「なな、何よこれ～!?」
そして光が消えるとそこに、バニーガールのような恰好のまりあさん、フリフリでロリロリなコスチュームに魔女みたいな帽子を被ったまのんさん、そしてミニスカ巫女のまひるちゃんがいた。
「じゃじゃ～ん♪　実はワタシたち『魔法少女』なので～す」
「……み、見るなっ。そんな物珍しそうな視線で見るなっ……！」
「はうぅ……は、はずかしいです……」
眼の前で起きた出来事にお姉ちゃんたちもさすがにぽかーんとしている――ともねえを除いて。
「あ、あぅ……ホ、ホンモノの魔法少女……な、仲間だ、私の仲間だよ、空也……！」

……というわけで。
佐々宮ちるだ、初のオリジナルライトノベルを上梓することとなりました。
タイトルは「まほねーず」（仮題）　一迅社文庫から 2011 年春、発売予定です。
まりあ、まのん、まひる――「姉しょ」のお姉ちゃんたちに負けない三人の
魔法少女なお姉ちゃんたちがかわいい弟のため大活躍します。　乞うご期待！

姉属性オンリーイベント

「姉魂っ～sis-con!～」

第２回 開催決定!!

2011 年 5 月 29 日（日）
川崎市産業振興会館 1Ｆホール（川崎駅より徒歩）
主催：姉学共済事業団
http://sis-con.net/

おかげさまで好評だった姉属性オンリーイベント「姉魂っ～sis-con!～」。
第 2 回の開催が決定しました！
一般、サークルとも、一人でも多くのご参加をお待ちしております。
Twitter、ブログ、SNS など、告知のご協力お願いしま～す！
他イベントでのチラシ配布要員、当日のイベントスタッフ要員も募集中です。
興味のある方は、下記連絡先、または mixi 上で全姉連を探していただき、ご連絡ください。

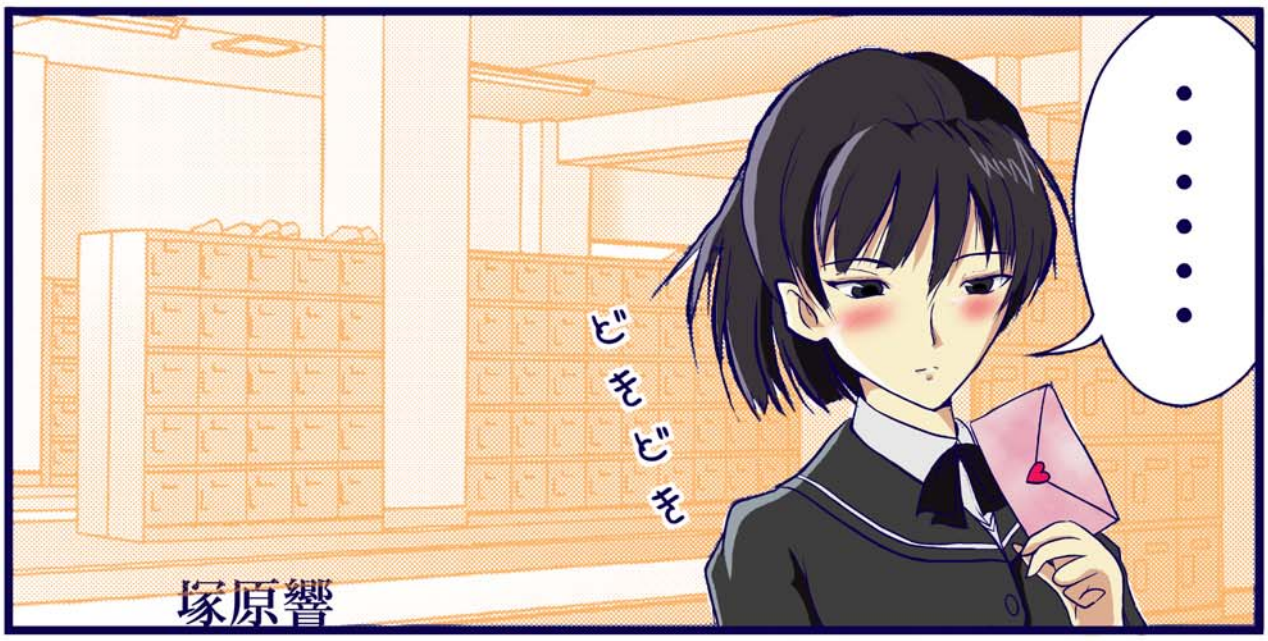
全姉連会報 第１４号

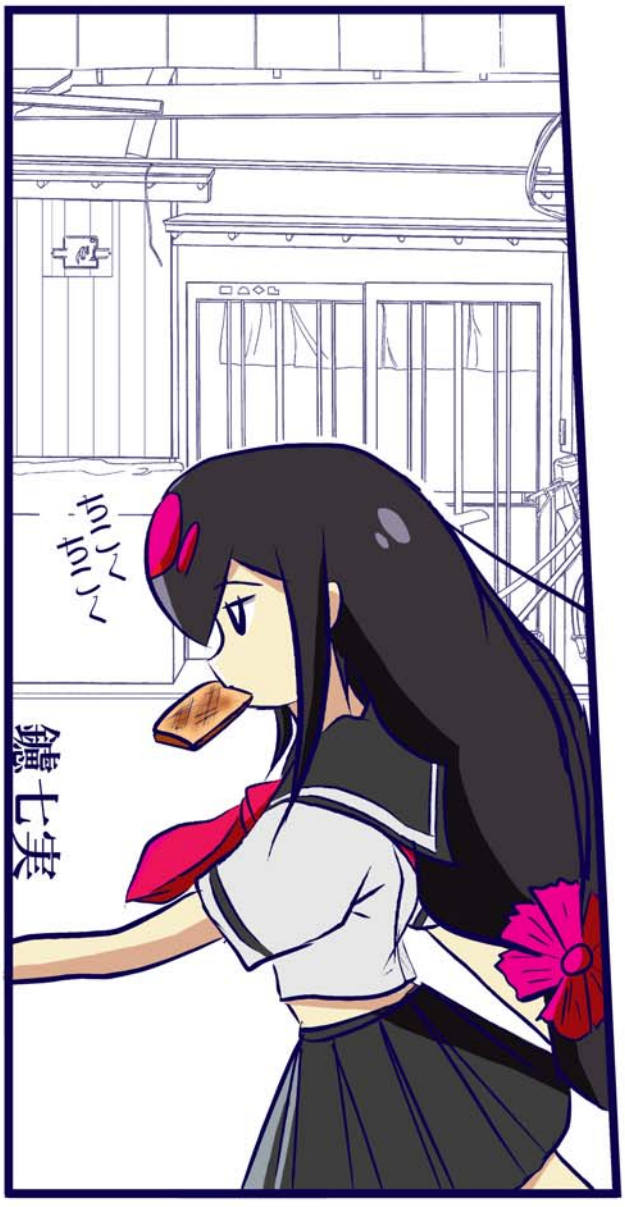
発　行： 全姉連 総本部（http://www.zenaneren.org/）
発行日： 2010 年 12 月 31 日
著　者： 全姉連総裁

連絡先： so-sai@zenaneren.org

表　紙： キョルノフ様 （http://www.h7.dion.ne.jp/~rennos/）
印　刷： 株式会社ユリクリエイト様

本書発行に至るまで、全姉連を通じて多くの同志から姉ゲー情報を頂きました。
ここにお礼申し上げます。
本書へのご感想、ご意見、ご質問はお気軽に上記連絡先までお送りください。





俺のお姉ちゃんが
こんなに黒髪で制服が似合うはずが
あるのだから
俺のお姉ちゃんにちがいないっ！（←？）

AneXLove

全姉連会報

14